# 挨　　拶

## 新学術会議会員当選にあたりて

今回行われた日本学術会議第3期会員選挙に際して，第5部（工学部門）に土木関係4氏が目出たく当選の栄誉を得られたことは既報のとおりであるが，編集部では早速新会員諸氏の抱負をうかがうべく原稿を依頼したところ，快諾を得たのでここに発表する。御多忙執筆された諸氏に対し謹んで謝意を表する次第である（五十音順）。　（編集部）

### 副会長　菊　池　　明

この度，日本学術会議会員に当選の栄を御与へ下さいましたことに就ては，会員各位の絶大な御支援に依ることを感銘致し，ここに厚く御礼を申上げます。

昨年末近く，丁度会員選挙の終り頃，新聞論調は殆ど各紙共，日本学術会議の存在をゆすぶる様な主張でした。法律を見てもその規則を見ても，同会議の使命は明かでありますが，運営上に問題があるのかも知れません。その上丁度行政機構の改革の狙上に上り，その運命すら論議せられるに到つた様であります。今日なおこの問題はくすぶつてゐる様です。

元来，この会議は敗戦の申し子の様なもので，戦前学術振興，科学技術振興と口には唱へながら，遂に実を結ばなかつたことが，戦後本会議の存在を認めしめたものでありませう。然し乍ら，凡そ研究調査を重視したがらない我国の為政者からは，何か事ある毎に，先づ槍玉にあげられるのが研究調査機関とその経費であります。恐らく今回の改革でも，又緊縮均衡予算編成でも，先づ取上げられるのはこれ等の機関の縮少と研究費調査費の圧縮であろうと思ひます。

選挙に関係ある陳情によつて，多分に左右せられる予算編成である間は，政治的な援護者の少ない研究，調査費，従てそれ等の機関が圧縮されるのは，火を見るより明かであり，はき違へられた民主々義の結果でありませう。

今一つの問題は，予算編成上，研究費，調査費の取扱ひ方である。予算項目の上で，研究調査費はかなり事務費雑費的な見方をされて，お尻の方にくつ付けられる。それも根本的には，研究調査そのものに就ての認識が足りないことに起因するが，一つには研究費，調査費が何んな形で，何う使はれるか判らない，決算上かなりルーズなものになり勝ちであると云ふ見方，又或る部面では，戦前から調査費と名の付くものは，その内訳がどうあつてもよいものだと云ふ誤つた見方をされて来たこともある様である。それ等が財政当局をして研究費調査費を嫌がらせる原因ともなつて居ると思はれる。

こんなことで学術会議そのものの存在があやしくなつたり，又今問題に取上げた，研究費調査費が軽々しく縮減されては，再び科学技術軽視の戦前の昔に帰ることゝなる。眼先の財政収支均衡に捕はれて大計を誤まるも甚しいと申さなければなりません。各種事業費を削減したければしても，その数%をさいて研究調査に廻せば，之を数倍加し得る筈であります。それはやがて将来の事業費の上で何%何十%を節約し得て大きく還元されることを忘れてはならない。仮りに 1953 年の我国の科学技術予算（即ち官庁研究機関経費，大学講座研究費並に研究補助金等）と，一般会計予算との実績を掲げると，一般会計予算 960,561 百万円に対し，科学技術予算は 11,747 百万円で，1.22 %である。これは%で英米の約 1/2 であります。こゝで一般から1%強を切つて研究費に廻せば，それは正に 100 %増になります。こんな数字は，数学を心得て居るものは馬鹿々々しくて口に出しませんが，こんなことが実に重要なことです。

次に財政当局からゴミタメ式に扱はれるものが調査費である。一例までに簡単な数字で申すなら，昭和28年度の直轄河川の改修維持，総合開発費は 110 億円，之に対し調査費はその 0.6 % 7,000 万円に過ぎない。

直轄道路の改修費が約 40 億円に対し，調査費はその 0.5 %の 2,000 万円に過ぎない。云はゞ，事業費は附くが，同じ事業に関連する調査費が事前に附き難い事実，之が如何に事業実施上不都合を招くことか，その損失は恐らく出し惜んだ調査費の数倍数十倍にも相当しないでせうか。唯々愚かなことゝ云ふ外はない。

まだ色々の問題がありさうです。それ等判りきつた問題が何時までも未解決で残されることは国家の為になげかわしいことです。

御挨拶としては，やゝ脱線のきらひがありますが，思ふ儘を書連ねて，私の意途の一端を申述べました。どうぞ此後共御指導御叱正を願上げます。

### 正員　田　淵　寿　郎

このたび，日本学術会議会員選挙にあたり土木学会の御推挙を受け会員の皆様の絶大なる御支援の下に当選致しましたことは誠に感謝にたえません，私と致しましてはこの御援助に対して日本科学の進歩と工業の発展のため会議を通して努力することを御誓い申して御好意に酬いたいと存じます。私は第2回学術会議にも皆様の御援助を忝うして当選し本来3年間の任期を近く終えます。この3年間に何をしたかと問われると誠にお恥しく微力充分に御期待にそうことのできなかつたことを認めざるを得ないのであります。この第2回の学術会議に対する反省をして今後の考えをまとめ

たいと存じます。第2回の3年間会議の大部分は研究費の分捕と科学者待遇改善にあつたように思います。研究費の増額，科学者待遇改善もとより必要なことではありますが，あまりにこの方に力を用いすぎたように思います。幸い第5部の方々はこの方面は冷静に判断して科学の振興と工業の発展と云つた方面に活動しました。残念に思つたことは第1回の時はスタック委員は第5部がほとんど全部出ておつて相当権威ある発言をしてスタック活動を活潑ならしめたそうですが，第2回には各部より選出したため工学以外の人はせつかく委員となりながらその智識がないためただ列席だけしており，そのために第5部出身の委員は転手古舞の忙しさをし，しかもその効を発揮しないと云う誠に見苦しい結果となりました。これは学術会議があまりにその分野も考えず平等のみを考えた結果と思います。これ等の不結果はひいて政府が学術会議を軽視し科学者の非常識を世間に示したことにもなり遺憾に存じます。学術会議と云つてもそれぞれの分野があり各部それぞれものによつてウエイトをつけて政府に対して当ると云うような具合にしなくてはせつかくの会議が軽視されることになると思います。最近政府が学術会議の改組を考えているのもこの辺にあるのではないかと思います。私は会員として地方におりますが第5部の各学科の横の連絡が必要と存じまして昨年名古屋で第5部会を開いて後工学懇話会を作つて横の連絡とともにこの懇話会の動静を学術会議に反映せしめたり，また民間工学界とのつながりを作ることがすこぶる有益であり工学の進歩に役立つものであることを自覚しましたので今後3年間はこの方をいま少し活潑化してみたいと思います。敗戦後の日本復興は科学の進歩と工業の発達奨励以外には道はないと思いますので幸い日本学術会議会員となりましたのでこの名において工業懇話会等を強化して日本産業の発達につとめたいと存じます。

## 正員　中原寿一郎

このたび，学会の御推薦によりまして日本学術会議会員選挙に立候補致しましたところ，各位の絶大なる御後援によりまして幸いに当選の栄を担うことができました。各位の御厚情に対し，深く感謝の意を表します。

御承知のとおり，日本学術会議は，科学が文化国家の基礎であるとの確信に立つて，わが国の平和的建設を使命とし，わが国の全科学技術者を代表する機関として設立せられ，科学を行政，産業及び国民生活に反映せしめ，浸透せしめることを目的としております。決議の結果は政府に対する勧告の形となり，また諮問に対する答申の形式となつて現われます。これは文化国家建設という重大な目標達成上の必要から戦後特に生れた科学技術尊重の具体的方策であることは申すまでもありません。われらは文化国家の基礎である科学者なるが故に学術会議を通じて行われる国政参与権とでも云うべき，一般国民の有せざる一つの権利が与えられておるのであります。これは明らかに一つの特権であると同時に，重大な責任のあるのは当然であります。

世間には「学術会議は何をしたか」などとそれ自体を目標として批評をする人がありますが，それは全面的にあたつているとは申されません。重心はむしろ学会，協会はもちろんこれらの構成会員にあるべきだと思います。わが国の全学会，全協会，研究機関及び技術団体等が活潑に活動し，それぞれの意見を法定代表機関たる学術会議にぶつけてくるようになつて，載きたいと思います。そうすれば逐次行政も産業もわれわれの思う線に沿うようになると考えます。

私にとつて土木学会は母体であり，私は学術会議におけるその代言者でありますから，学会の意図するところはもちろん会員各位個々の御意見であつてもどしどしと，御連絡御鞭撻のほど，お願い致します。

## 正員　工学博士　矢野勝正

会員各位の絶大な御支援により，このたび学術会議会員に当選いたしましことを心より御礼申しあげます。

私は今日までの社会生活の大部分を土木技術の現業面及び行政面に送つてまいりましたもので，大学の生活は未だやつと2ケ年を経過したばかりのものでありますが，この間最も痛切に感じましたことは，我が国の科学技術がほんとの意味で尊重されなく，従つて外国のそれに比べて，総括的にはどうしてもたち遅れているということであります。そして今日においても，依然としてたち遅れているということであります。

ドイツでは戦後復興の第一に科学技術の振興という点にまづ主力を注いで研究機関，教育施設の拡充整備に全力を傾注しているとのことであります。都市の真中に未だに廃きよに化したビルが並んでいるのに大学とか研究機関は既に戦前を超す復興振りを示しているそうであります。ここにドイツの復興の基盤がつちかわれているので，私達の大いに考えさせられる多くの点があるものと痛感いたします。我が国では，たとえば官庁方面では戦後とくに基礎的な科学技術の研究及びその発展という点では非常にそのテンポがゆるいのではないかと思います。大部分の人は陳情や予算や復雑な事務に忙殺されているのが現実のような気がいたします。このような状態をいつまでも繰返していることは到底許されないことであると思います。元来研究経費というものは莫大な事業費に比べると特別のものを除いてはそう多額の経費を必ずしも必要としないのですが，それにもかかわらず我国のこの方面の資金投資は驚くべき少額であります。これから我が国が産業の振興，経済の自立化，貿易の振興を計る上から何をおいてもその基礎となる科学技術の発展という点に重点をまづ向け，合理性の基盤に立脚したあらゆる施策が確立し実行されねばならないと確信いたしています。この意味で私は微力ながら全力を注いで努力いたしたいと思つています。重ねて全員各位の御叱正を御願い致す次第であります。